

# フロンティア分科会ー平和のフロン ティア部会 プレゼンテーション資料

2012年2月7日 第1回部会

栗栖 薫子

# 1. 2050年の日本の姿？

- 2050年の日本を平和・安全保障という観点からシミュレート？—あまりに多変数
- 国際政治の構造変化
- 日本の国力の変化

# 国際政治の構造

- パワー・シフトが進行
- 長期的には国際システムにおける主導国（アメリカと中国、そしてインド）の交代ーパワー・トランジションーの可能性
- その重心にあるのはアジア太平洋地域



- ①アジア太平洋地域や世界の平和と安全
- ②国際的なガバナンスー経済、金融、環境、広義の安全保障
- ③日本の平和と安全

# 日本の国力の基盤

- 少子高齢化
- より厳しい世界的な経済競争
- 日本の国力—右肩上がりの向上は見込めず
- 2050年—「中位の諸国群」に位置？
- ⇒ その国力を前提とすれば、日本が2050年代を無事に生き残るためにも、また世界の平和に貢献するうえでも、相当の工夫—政府による内政と外交、市民社会、企業の活動—をもって一定の国際的影響力を維持し続ける必要

# もう一つのパワーシフト

- グローバル化が進むなかで様々な主体へのパワー・シフトも進行
- 地域からグローバルまで多様な課題に関心を持つ市民社会の存在感が増大
- 日本はより一層の対応を迫られる

## 2. 2025年に向けて？（1）

- 日本の安全保障—アメリカなどの友好諸国と協力しつつ、日本自身の防衛力・外交力を高める。
  - 少なくとも国力のうえで「中位の上」の国をめざすべき
  - 中位の国が安全に生存し、世界平和に貢献するためには、「外交力の向上」が必須
- 国力としての限られた「資源」を、最大限に「影響力」に「変換」するための装置や工夫が必要

## 2025年に向けて？（2）

- 世界大で正統性の高い価値や規範を推進し、それをリードする国として見られること。
- 地域や世界の平和という公共財に貢献する国となるべきであり、そのような価値を共有する諸国との連携が重要。
- 「世界にたくさんの仲間がいる日本」を目指すこと。

### 3. 重点領域(1)

- 戦略的(経済、地政)な重要国との二国間外交の立て直し
- 新興大国が現行のグローバル秩序や制度をどう理解し、どのような変更を求めるのかを予測。これらの諸国に「関与」することで、日本や世界の多くの諸国にとって望ましい国際秩序の維持・形成に貢献するべき。



## 重点領域(2)

- マルチ外交の強化—例えば国連、アジア太平洋などの枠での人的ネットワーク強化
- 国際機関に優秀な邦人人材を送り込むと同時に、資金的基盤を確保
- 企業や官庁が多様な人材を柔軟に採用する仕組みへと変更
- 国際的に活動する市民社会組織のいっそうの育成

## 重点領域(3)

- 国際的に提唱し、正統性をもって受入れられるような価値や規範を推進  
＝「知的リーダーシップ」(民間、市民社会、官からのインプットが必要)
- 外交上の価値、アイデンティティを明確にする必要。  
日本社会自身がよって立つ民主主義、人権などの価値をいまよりも明確化することであり、これを共有する諸国との連携をいっそうはかるべき。
- これらの価値の内容や制度的に体现されたものは一様ではない。途上国への価値の普及や、異なる価値間の調整において、日本はより重要な役割を果たすことができるだろう。

## 重点領域(4)

- 多国間の平和維持、平和構築活動により積極的に貢献すべき。
- 開発援助：中印の援助競争に正面から参入するべきではない。日本の国益と、被援助国・社会における均衡のとれた発展というウィン・ウィンの観点からあらためて戦略的な支援を行う。開発援助のための国際的指針の作成にイニシアティブをとるべき。